

会 議 録 (概要)

会議の名称	灰溶融固形化施設公害防止協議会
開催日時	平成 30 年 11 月 26 日 (月) 午後 3 時 30 分開会 午後 4 時 25 分閉会
場所	メルティングセンター佐渡 2 階研修室
議題	(1) 平成 29 年度における各種測定結果について (2) 平成 29 年度施設の経過報告について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	参加者 関係集落 5 名 環境対策課 課長 原田 健一 両津支所 支所長 清水 正人 事務局 環境対策課 課長補佐 谷地 喜文 環境対策課施設管理係 係長 中川 祐亮 環境対策課施設管理係 主事 山中 和明 灰溶融固形化施設 技能士 岩崎 伸人
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0 人
備考	

会議の概要 (発言の要旨)	
発言者	議題・発言・結果等
原田課長	開会の挨拶
山中主事	(1) 平成 29 年度における各種測定結果について (2) 平成 29 年度施設の経過報告について ・ 会議資料の資料No. 1 から資料No. 7 により説明する。 ・ 排ガス等測定結果、浴槽水質検査結果、放射性物質濃度等測定結果については、全て基準値以下である。
A 氏	・ 大川地区の場合、苦情があれば、市に直接連絡せず集落の役員を通してくださいと言っているが、直接市への苦情はあるか。

山中主事	<ul style="list-style-type: none"> ・メルティングセンターについてはない。
A氏	<ul style="list-style-type: none"> ・私はメルティングセンターを始めるときから知っているのですが、建てる前にはばいじん等の心配をしていた。当初は白い煙を見て「なんだ」となったり、それが水蒸気だと分かったりとかあったが、最近はそのようなことは一切なくなった。それとこの施設は24時間稼働しているので騒音等の苦情はないのかなと思う。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・この施設と市役所にはそういった苦情はない。
B氏	<ul style="list-style-type: none"> ・空気中、土壌はモニタリングしているが、汚染物質が排水から出るということはあるか。
谷地補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・メルティングセンターの排水については、外への放流はしていない。この施設の中で循環させて再利用しているので、公共水域に出るようになっていない。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・羽二生地区の土壌ダイオキシンは、国の基準値や自主規制値には入っているが、平成28年から平成29年にかけて、1.6pg-TEQ/gから2.4pg-TEQ/gに上がっているが、上がった理由はあるか。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・pg（ピコグラム）は1兆分の1グラムという非常に小さい単位で、灰処理の状況などいろいろなものが複合的に関連しており、誤差の範囲で心配はいらない。
清水支所長	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的にはその時の気候などの条件で、同じ数値にはなり得ない。日によって違う。目に見えないくらいの誤差だと思って欲しい。
A氏	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイオキシンは自然の中にもある物質なので、それを基準にしてみると分かりやすい。そういうのがあると安心するのだが。
清水支所長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとのダイオキシンの基準は無いので、国の基準がある。あくまで国の基準に対してどうかと考えて欲しい。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・スラグの再利用の状況はどうか。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・不燃残渣が南佐渡一般廃棄物最終処分場に入っているが、その覆土として使用している。

C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・島内で使いきれない分は、島外で処分するのか。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・現在島外には出していない。
清水支所長	<ul style="list-style-type: none"> ・当初はスラグの形状が尖っており、怪我等をするおそれがあり、それを丸い形状にするための機器を導入し、下水道用の細砂の代わりに使用していたが、このような施設から出たものであることから、地下水等が出ない地盤等で使用していた。また、スラグの排出量が一定しないこと、必要量が一度に用意出来ないことから再利用の状況に限られるが、島内で処分するようにしている。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・他県でのスラグの処理はどうなっているか。
清水支所長	<ul style="list-style-type: none"> ・土木での使用はあるが、佐渡の場合は島外に出せばその分の費用がかかるので、受け入れ側のメリットがなくなると考える。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の土嚢に詰めるものとして分けてもらえるか。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・溶出試験等はしているが、万が一のことも考え、どこにでも使って良いものとは考えていない。
清水支所長	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の土嚢については、両津支所でも土を入れた状態で確保している。防災のため、本庁、支所、行政サービスセンター含め土嚢は用意してあるので、連絡していただければ無償で出せる。土嚢に新たに詰めるよりも速いと考え。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡クリーンセンターも環境対策課の所管か。メルティングセンターへ搬入される焼却灰の島外搬出は可能か。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡クリーンセンターも環境対策課の所管である。佐渡島内の各廃棄物処理施設も老朽化や埋立量など先が見えている状況であり、それぞれの建設等に費用がかなり掛かるので、長期的に見てどのような施設整備が最適か検討している。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡島内の焼却灰を引き受けてくれるところはあるか。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・国内に何箇所かある。佐渡島内で年間約2,000トンの焼却灰が出るので、処理費用、施設の更新等も市の財政状況を含め全体的に考え、効率的な運用が図れるか検討している。

C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5年前からメルティングセンターがなくなるとの噂が広まっている。運転員の異動もあったので、佐渡市は出た灰を島外搬出する方向性なのかと思っている。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった想定も一つのパターンとしてあるが、それが全てではない。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・南佐渡一般廃棄物最終処分場はあとどのくらいで一杯になるか。
原田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・災害廃棄物（火事・高潮）等が多いことを想定して平成40年程度と考える。災害廃棄物が少なければそれよりも延びる。
D氏	<ul style="list-style-type: none"> ・今日来てみてスラグが沢山あり、どうするのかと思ったが了解した。今後に活かしたいと思う。
A氏	<ul style="list-style-type: none"> ・12月で羽二生地区、大川地区とも役員が代わるが、代わったら連絡したほうが良いか。
山中主事	<ul style="list-style-type: none"> ・変更時点で連絡して欲しい。
清水支所長	閉会の挨拶